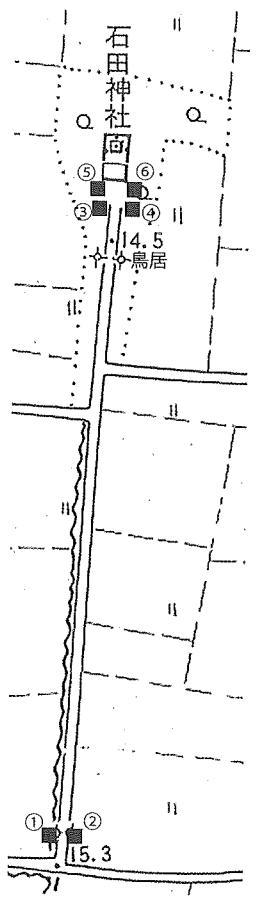


9. 東岩田石田神社

八幡市岩田には2座の石田神社がある。便宜的に東岩田と西岩田として記述することにする。『村誌』では東を石田神社、西を御靈神社とする。その石田神社は延喜式内社とされ、盤裂神を祭神としている。字里に位置し、周辺に拝の字名もある。鬱そうとした鎮守の森を形成していることが特徴的である。

参道入口にある一对の石燈籠（1・2）は大型の神前形で、安政3年（1856）の建立である。この前面の道は木津川の渡し場と奈良街道を結ぶ道であり、主要な交通路に面して大型の燈籠が建てられたことがわかる。この街道と奈良街道の辻には愛宕燈籠が建てられ、「右宇治渡場道」とあるように道標を兼ねている。

神社境内の石造物の中でも鳥居が最も古く、宝永3年（1706）であり、岩田村の名も見える。石燈籠では拝殿前の円柱形のもの（5・6）が古いと考えられるが、風化のため銘が読めない。なお、図示したもののはかに明治20年（1887）の狛犬一对がある。また、明治27年（1894）の遙拝碑には 中央に天照皇大神、右に神武天皇、左に孝明天皇の名を記している。
（菱田哲郎）



鳥居
〔右柱正面〕
〔左柱正面〕
寶永丙戌九月吉日
山城綾喜郡岩田村

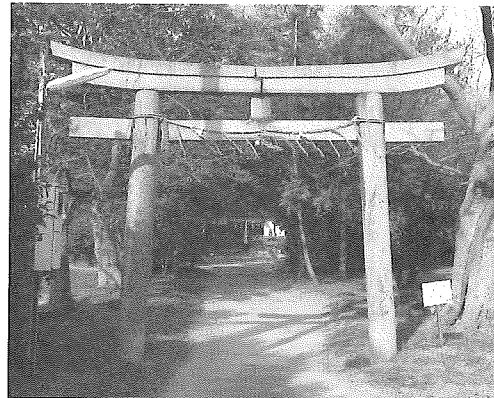


図24 東岩田石田神社（1）

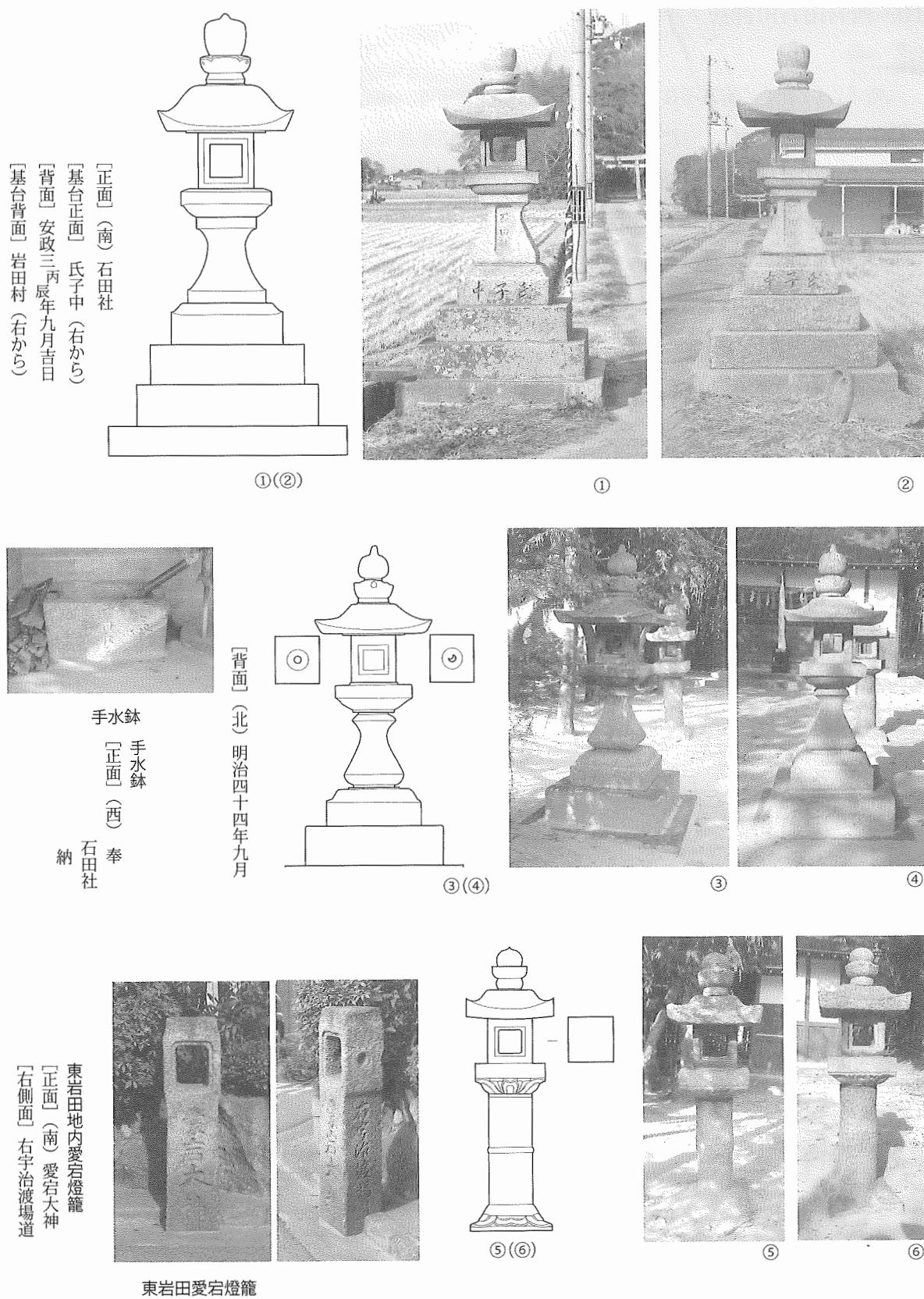


図 25 東岩田石田神社 (2)